

1. 報告要旨

市民参加の水田調査を実施することができ、特に、ネオニコ空散前後の陸生動物の動態を、空散を行った水田と行っていない水田とで比較することにより、空散の影響を市民とともに実感することができた。調査結果として、ネオニコ空散の目的であるカメムシは、もともと被害を与えるほどには生息しておらず、逆に空散を行うことで天敵が減少し、補食圧が下がることで害虫が増える傾向があることが明らかとなった。空散を行った水田では、クモ類の数が減るとともに大きなクモがいなくなることが分かり、直接、ネオニコによりクモが死滅するよりは餌が減ることにより、クモの小型化と密度の低下が起こっていることが考えられた。

空散マップは一部未完成となっているが、空散を行わない圃場が増えており、ある程度の面積となっていることが明らかとなった。また、農家自体は、空散に対して、何が何でも実施しなければならないという強い思いを持っているのではなく、習慣的に実施しているだけであり、問題があるのであればやめても良いと思っている人が多いという印象を持った。同時にネオニコの問題については把握していない農家が多く、空散の場合は特に自分で散布するわけではないので、あまり関心事になっていない。

調査結果のアンケートからは、ネオニコのことを知らない人が圧倒的に多いこと、まだまだ広報が足りていないことを思い知らされたが、同時に情報を得ることで意識が変わることがみてとれた。調査結果のパンフレットについては、ネオニコが水田で使われることの問題に関心を持つ人を増やす上で有効なツールであることが分かった。

プロモーションビデオについては、調査結果に基づくネオニコと水田の生物との関係についてわかりやすく説明することができたが、製作が遅れたためにまだ十分に広報できておらず、効果については把握できていない。

2. 成果物

1. 「[田んぼの生きもの調査](#)」の実施（6月～8月、合計6回）
2. 河北潟周辺の空中散布実施エリアマップ
3. 「[エコプロ 2019](#)」ブース出展。田んぼの生きもの調査結果と浸透性殺虫剤の問題について伝える（2019/12/5～7）
4. シンポジウム「[水田の生物多様性と農薬使用について～使わないでいい農薬を使わないことで生きものも人もhappy！～](#)」の実施（2019/12/22）
5. 田んぼの比較公開調査の報告（12/22 シンポジウムの報告 ppt 資料）
6. [研究成果普及シンポジウムのチラシ](#)
7. 冊子「[ネオニコチノイド系農薬など浸透性殺虫剤は必要？田んぼの生きもの調査から考えよう](#)」
8. 生態系への影響が大きい浸透性殺虫剤の問題を伝えるクリアファイル
9. 田んぼの生きもの調査結果と浸透性殺虫剤の問題を伝えるプロモーションビデオ
「環境学習／浸透性殺虫剤について考えようーカメムシの少ない田んぼに浸透性殺虫剤は必要ないー」
[日本語版](#)／[英語版](#)
「環境学習／変わる田んぼと生きもの、人の暮らし」[日本語版](#)／[英語版](#)
10. アンケート調査結果（公開予定）